

那覇西、試合掌握し完勝



那覇西一浦添商 シュート放つ那覇西の喜納歩菜 16日、八重瀬町の東風平運動公園体育館

那覇西(女子)、興南(男子)V

16日、八重瀬町東風平運動公園体育館で最終日を行い、女子決勝はハンドボールの第35回琉球新報旗争奪九州高校選抜大会県予選は

那覇西が22-13で浦添商業を下し、4年ぶり11度目の栄冠を手にした。男子決勝は興南が32-22でコザに快勝し、2年連続28度目の頂点に立った。男女上位2チームは第47回九州選抜大会・第42回全国選抜大会九州地区予選大会(来年2月、熊本県)に派遣される。

ハンド九州高校選抜予選

大会前の練習から、内容や雰囲気はいまひとつの中、那覇西たつたが、決勝の後半は浦添商の攻め手を封じて2失点にとどめ、試合を掌握して勝ち切った。10月の新人大会に続く2大会優勝。県内勢力図を変えながら強豪の地位を取り戻す那覇西の比嘉律監督は、「課題は多いが、生徒が

努力してつかんだ優勝を、全國制覇という夢につなげたい」と笑顔で語った。相手の強みを時間をかけ、つぶしていく内容だった。全国高校総体や国体を経験した浦添商が残る浦添商に前半は押されたが、守備の右2枚目の上地杏蘭が「攻撃パターンを読みだ」とパスカットから速攻を2回。チームとしては相手サイドをけん制しつつ、主力3人に対し守備を集中する

などし、接戦の中で徐々に守備の判断を統一していった。後半、浦添商に手詰まり感が出ると、那覇西は高めの守備からボールを奪つて速攻で奪み掛けた。相手の2人連続退場の好機を逃さず、後半は11-2と圧倒した。流れをつかんだ時間帯は喜納歩菜の流れながらのロングショットや久場川かわらのクイックシュート、久場川がざらしでつくった右サイドのフリーボールを田場心晴が決

めるなど、気持ちの入ったプレーが光った。上を目指すチームとしては個々がレベルアップした結果。でも、ミスで相手の形はよくなつた」と手応えを語る。膝のリハビリでベンチに控える金城有華主将は、「九州で勝つ全県出場を決めて、リハビリ中の自分もペナルティースローから勝利に貢献したい」と意気込んだ。(嘉陽拓也)

九州大会へ課題残す 興南



○:男子決勝は、常勝・興南が控えメンバーを出場させるなど、実力差を見せてコザを下した。しかし、シートミスも多いために得点力をアップし、コザとともに全国に出場できるよう

足を使つた素早い連係得意とするコザを相手に、興南は前半から徐々に抑え始めるも、い形で放つノーマークのシュー

り返つた。

1-2-3守備もカバーやマ

ークのズレなど課題も見えおり、大城佑吏は「相手のボスト

トが決まらず、点差を広げられを絡めた縦の2対2もやられ

た。九州大会までに修正し、各チームに10点差以上つけて優

準優勝だった男子・コザの山城貞智主将は、「負けたけれど、興南との差を縮めたのは個々がレベルアップした結果。でも、ミスで相手の形はよくなつた」と手応えを語る。膝のリハビリでベ

ンチに控える金城有華主将は、「

那覇西 22
(4年ぶり11回目の優勝)
1111
2 11
13 浦添商
(2年連続28回目の優勝)
1111
22 コ
ザ

興南 32
(4年ぶり11回目の優勝)
1715
1111
22 コ
ザ

△決勝
△決勝

逆速攻にやられすぎた
女子準優勝の浦添商・野底実主将の話 部員8人

で大会前に先輩らが練習に付き合つてくれたけれど、後半の2得点のみだったのが悔しい。那覇西の高めの

守備の前に、攻撃がシュー

トまでいけず、逆速攻でやられすぎた。九州までにオーフェンスの力を上げる。



女子の部 優勝し笑顔を見せる那覇西のメンバー

男子の部 優勝しガツツボーズの興南のメンバー